

## IV 他都市の状況・事例等について

# 教育支援センターに通う児童生徒について

○ 約6割の自治体で教育支援センターを設置しており、平成29年度は、中学生（約1.7万人）を中心に約2.1万人が利用した。

【教育支援センター(適応指導教室)について】平成29年度施設数 1,295施設

教育支援センター(適応指導教室)とは、不登校児童生徒等に対する指導を行うために教育委員会及び首長部局が、教育センター等学校以外の場所や学校の余裕教室等において、学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織として設置したものをいう。なお、教育相談室のように単に相談を行うだけの施設は含まない。

【設置の有無】 ◇約6割の自治体で設置している。

ア 設置している	1,142	イ 設置していない	676
----------	-------	-----------	-----

【在籍者数】

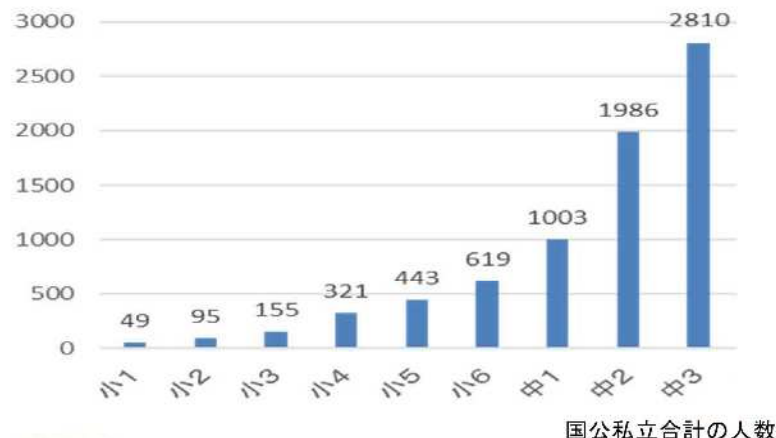
◇在籍者数は、義務教育段階では、学年が上がるほど増加している。

【学校復帰者数】

◇校種別の復帰率は、小学校約42%、中学校約35%、高校約43%。

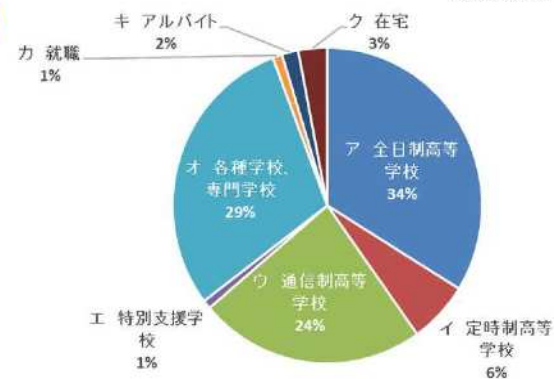
◇中学校では、学年が上がるにつれて復帰率が高い。

年 校種	学年別人数(人)						計
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
小学生	49	95	155	321	443	619	1,682
中学生	1,003	1,986	2,810				5,799
高校生	22	25	14	0	2		63



【H29年度中学校3年生に在籍していた者のその後(H30年度)の進路】

中学校3年生に在籍していた者の数(人)		7000
区分	人数(人)	割合
ア 全日制高等学校	2294	34.0%
イ 定時制高等学校	429	6.4%
ウ 通信制高等学校	1603	23.8%
エ 特別支援学校	61	0.9%
オ 各種学校、専門学校	2007	29.7%
カ 就職	34	0.5%
キ アルバイト	116	1.7%
ク 在宅	205	3.0%
計	6749	



※域外への転出が3名いるため、区分の計と3年生の在籍者数とは一致しない。

(出典) 文部科学省「教育支援センター(適応指導教室)に関する実態調査」(令和元年5月)

# 教育支援センター（適応指導教室）の状況（政令指定都市）

指定都市	設置数	常勤		非常勤		合計
		人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）
1 札幌市	6	0	0.0	26	100.0	26
2 仙台市	1	4	8.0	46	92.0	50
3 さいたま市	6	0	0.0	18	100.0	18
4 千葉市	6	0	0.0	24	100.0	24
5 川崎市	6	0	0.0	26	100.0	26
6 横浜市	14	4	6.1	62	93.9	66
7 相模原市	7	1	7.1	13	92.9	14
8 新潟市	6	7	24.1	22	75.9	29
9 静岡市	3	4	17.4	19	82.6	23
10 浜松市	8	0	0.0	29	100.0	29
11 名古屋市	3	11	14.7	64	85.3	75
12 京都市	6	1	2.6	38	97.4	39
13 大阪市	0	0	-	0	-	0
14 堺市	3	4	22.2	14	77.8	18
15 神戸市	8	30	73.2	11	26.8	41
16 岡山市	5	0	0.0	32	100.0	32
17 広島市	4	0	0.0	15	100.0	15
18 北九州市	2	0	0.0	14	100.0	14
19 福岡市	4	4	30.8	9	69.2	13
20 熊本市	3	2	33.3	4	66.7	6
合計	101	72	12.9	486	87.1	558

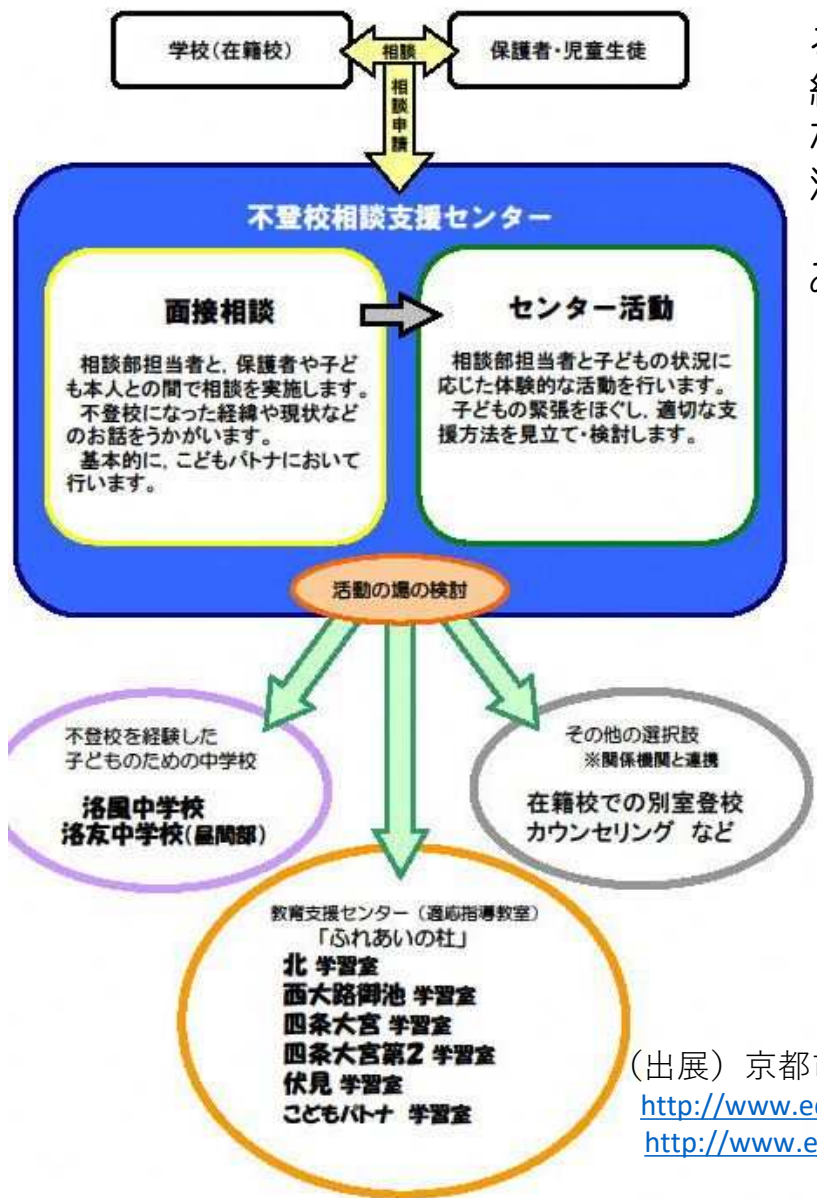
# 特例校の設置状況

令和元年6月現在、指定を受けている学校は全国で12校。うち、教育機会確保法施行後の指定は2校（平成29年4月、平成30年2月）。

学校名	管理機関	所在地	事業の概要
八王子市立高尾山学園小学部・中学部 (平成16年4月開校)	八王子市教育委員会	東京都八王子市	不登校児童生徒のための市立小中一貫校。学年を超えた習熟度別ステップ学習や小学校1・2年次における「総合的な学習の時間」の導入、多様な体験活動などを行う。
京都市立洛風中学校 (平成16年10月開校)	京都市教育委員会	京都府京都市	不登校生徒のための市立中学校。実社会と直結した実践的な体験活動や京都の特性を活かした文化・芸術・ものづくり活動などを行う。
学科指導教室「ASU」 (平成16年4月開校)※小・中学校	大和郡山市教育委員会	奈良県大和郡山市	不登校児童生徒の学習の場として、学科指導教室「ASU」を設置し、学年を超えた習熟度別指導、児童生徒の興味・関心に応じた多様な体験活動などを行う。
星槎中学校 (平成17年4月開校)	学校法人国際学園	神奈川県横浜市	不登校生徒に対し、個別指導計画を作成し、習熟度別クラス編成や体験学習等の導入を行うとともに、授業時数を増やして指導を行う。
鹿児島城西高等学校 普通科(ドリームコース) (平成18年4月開校)	学校法人日章学園	鹿児島県日置市	「産業社会と人間」、「進路研究(自己理解)」等を学校設定科目として設け、不登校状態がそれぞれ異なる個々の生徒に、きめ細かな指導と弾力性を持った教育を提供する。
東京シューレ葛飾中学校 (平成19年4月開校)	学校法人東京シューレ学園	東京都葛飾区	道徳及び特別活動の時間を統合した「コミュニケーションタイム」を新設し、話し合い、共に協力しあいながら、自分達のやりたいことを実現していく方法を学ばせる。
京都市立洛友中学校 (平成19年4月開校)	京都市教育委員会	京都府京都市	学齢超過の義務教育未修了者を対象とする二部学級を設置する中学校。二部学級の生徒とのふれあい等を通して、学習意欲向上と集団への適応を目指す。
日本放送協会学園高等学校 (平成20年4月開校)	学校法人日本放送協会学園	東京都国立市	「生活実習」や「職業技術科目」等により、実習・体験型の学習による達成経験の積み重ねなどを通じて、生徒の社会性や自立性の育成、活動意欲や学習意欲の向上を促す。
星槎名古屋中学校 (平成24年4月開校)	学校法人国際学園	愛知県名古屋市	「基礎学力」及び「社会に適應する能力」向上を目指した特別な教育課程を編成し、指導を行う。また、生徒の興味や関心、適性をふまえた学習意欲を高めるための指導を充実するために特別な教育課程を編成し、指導を行う。
星槎もみじ中学校 (平成26年4月開校)	学校法人国際学園	北海道札幌市	「ベーシック」及び「ソーシャルスキルトレーニング」を教育課程に位置付け、個々の生徒の学習の到達度に合わせた指導を行うとともに、人間関係の構築に必要なスキルを重点的に指導することにより、「基礎学力」及び「社会に適應する能力」の向上を目指す。
西濃学園中学校 (平成29年4月開校)	学校法人西濃学園	岐阜県揖斐郡	「コラボレイト」を新しく教育課程に位置付け、国語、社会及び総合的な学習の時間を融合した授業を実施する。寮を持つ学校であり、学習及び生活指導を一貫して行う。
調布市立第七中学校はしうち教室 (平成30年4月開校)	調布市教育委員会	東京都調布市	体験活動等で考えたこと等を、各教科で身に付けた力を活用し生徒の得意とする手法で独創的に表現する「表現科」や、不登校による未学習部分を補うため、一人一人の状況に合わせて学習を行う「個別学習」の時間を新しく教育課程として位置付ける。

# 京都市の不登校対策の取組（不登校相談支援センター等）

不登校相談支援センターの活動の流れ<イメージ>



不登校相談支援センターは、不登校状態にあり、登校に向けた支援方法や、在籍校以外での学習を希望する子どもたちの活動の場等に関する相談窓口。

具体的には、子ども本人や保護者の方の意向、学校の意見等も踏まえながら、「面接相談」や「体験的活動」を通じて、不登校の子どもたちの活動の場である教育支援センター（適応指導教室）「ふれあいの杜」への入級や、不登校を経験した生徒のための中学校である「洛風中学校」「洛友中学校」への転入学など、多様な選択肢の中から一人ひとりの状況に応じた最も望ましい支援方法について考えていく。

これにより、不登校状態に悩む子どもたちが進路展望を見据え、自立心に富み、生き生きとした生活を送ることができるような支援を目指す。

## ※ ふれあいの杜

ふれあいの杜は、学校生活や家庭生活での様々な不安や緊張、人間関係などが原因で不登校となり、在籍校の取組ではその状況が十分に改善せず、不登校が長期化した子どもたちの活動の場。今、在籍している学校とは「長い廊下でつながった別室」であり、小集団での体験活動や、学習活動等を通じて、学校復帰や社会的自立の育成を支援。

ふれあいの杜は、市内6箇所開設しており、各学習室の活動内容に特色を持たせることで、多様な子どもたちの状況に合わせることができる。

活動曜日はいずれの学習室も、月・火・木・金の週4日となる。水曜日は「学校登校にチャレンジする日」となっている。

## ※ 洛風中学校

平成16年10月に構造改革特区制度を活用し、こどもパトナの敷地内に開校。洛風中学校では、理科と社会を融合させた「科学の時間」や美術・技術・家庭科・音楽を融合させた「創造工房」など特色ある教育活動を展開している。

## ※ 洛友中学校

平成19年4月、郁文中学校跡に開校。不登校を経験した「昼間部」の生徒と、様々な事情により義務教育を修了できなかった方などへの教育保障を行う「夜間部（二部学級）」の生徒が、世代や国籍を超えて、ふれあい、学びあうことにより、学校の楽しさや学ぶことの喜びを実感できることを目指す。

（出展）京都市ホームページ（令和元年11月5日確認）を基に北九州市教育委員会にて作成

[http://www.edu.city.kyoto.jp/patona/ijime\\_futoko.html](http://www.edu.city.kyoto.jp/patona/ijime_futoko.html) <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000001772.html>

[http://www.edu.city.kyoto.jp/patona/related\\_site.html](http://www.edu.city.kyoto.jp/patona/related_site.html) 等

# 名古屋市の不登校対策の取組①

○「ハートフレンドなごや」が子どもの状況に応じた対応（関係機関の紹介等）をアドバイス。

<具体的な紹介例>

- ・外に出られるが対人不安が強い場合 : なごやフレンドリーナウ
- ・引きこもり傾向等がある場合 : ハートフレンドなごや(訪問相談)
- ・医療的・福祉的ケア等が必要な場合 : 医療・行政機関など
- ・その他の不登校や登校渋りなど : ハートフレンドなごや(電話・来所・メール相談)



(出展) 名古屋市ホームページを基に北九州市教育委員会にて作成

## 名古屋市の不登校対策の取組②

- 名古屋市子ども適応相談センターは、市内3か所において、通所による教育相談や適応指導を行っている。
- 適応指導部では、月～金曜日の9:50～14:40子ども同士の関わりへの援助や、学習の支援を行い、体験活動や所内・所外の宿泊活動も行っている。子どもの状況に応じて、週1～3回通う体験部と毎日通う小学部・中学部がある。学習活動においては、タブレット教材の活用なども行っている。
- 教育相談部では、定期的に子ども・保護者と個人面接(1回50分)を行っている。
- 浄心では、2階で学習活動などを行い、3階で教育相談を行うなど施設面での工夫もなされている。

### <なごやフレンドリーナウ(浄心)>



# 横浜市の不登校対策の取組（横浜教育支援センター等）

- 横浜教育支援センターでは、不登校児童生徒の状況に応じて、再登校や社会的自立に向けた相談・指導を行っている。主な事業として、ハートフルフレンド家庭訪問、ハートフルスペース、ハートフルルームの運営を行っている。

♥ ハートフルフレンド	♣ ハートフルスペース	♦ ハートフルルーム
<p>ひきこもりがちな状態の緩和を目的に、兄や姉に相当する世代の大学生・大学院生が2週間に1回のペースで家庭訪問をします。一緒に話をしたり、遊んだりしながら、子どものエネルギーを高めていきます。</p>	<p>週1～2回通室し、支援員等と創作活動や軽スポーツ等をします。「集団」は1時間半の活動を週2回、「小グループ」と「個別」は1時間程度の活動を週1回行います。各種体験活動や宿泊行事も実施しています。</p>	<p>学校敷地内にあります。毎日通室することができ、1日3単位時間の学習活動を行います。パソコン教室や茶道等、様々な活動も行っています。曜日を選んで、自分のペースで通室することもできます。</p>

- 横浜市教育総合相談センターでは、不登校について心配や不安を感じている保護者を対象に、講演会や不登校体験談、保護者同士の情報交換会等を取り入れた「保護者の集い」を開催。

◆平成31年度（令和元年度）

- ・全6回
- ・定員：各回約100名

※横浜市不登校児童生徒支援の手引き（平成30年4月）及び横浜市ホームページを基に北九州市教育委員会事務局にて作成  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/soudan/kyoikusoudan/soudan4000.html>（令和元年11月5日確認）



# ハートフルルーム舞岡



JR「戸塚」駅からバスに乗り、「舞岡中前」で下車します。校舎横の階段を上るとハートフルルーム舞岡です。



学習をしたり、みんなと生活をしたりする部屋です。



学習をしたり、みんなと生活をしたりする部屋を別角度から見た様子です。



菜園で野菜を作っています。収穫した野菜を調理実習の食材としています。



学習したことや作品が部屋のいたるところに展示されています。この部屋では卓球台を出して、スポーツも楽しめます。



読書をしたり、話をしたり、食事をしたり憩いの場となっています。

※横浜市教育委員会ホームページ

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/soudan/kyoikusoudan/soudan4000.files/shiennc\\_maioka.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/soudan/kyoikusoudan/soudan4000.files/shiennc_maioka.pdf) (令和元年11月5日確認)

# ハートフルスペース上星川



相鉄線上星川駅から徒歩4分ほどの国道16号線沿いにあります。



玄関を入ったところです。



ふれあい室です。活動の前後にここに集まって話やゲームをしたり、創作活動を行ったりします。



棚にはハートフルスペースで作られる作品などが飾られています。



少人数で活動する部屋の一つです。また、別に保護者控室もあります。



プレイルームです。卓球をはじめ、いろいろな軽スポーツができるように準備をしています。

※横浜市教育委員会ホームページ

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/soudan/kyoikusoudan/soudan4000.files/0012\\_20180815.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/soudan/kyoikusoudan/soudan4000.files/0012_20180815.pdf) (令和元年11月5日確認)

## 鳥取県の不登校対策の取組（自宅学習支援）

- 不登校児童生徒のうち、主に自宅で過ごしている児童生徒に対して、インターネットを活用した在宅での学習支援を行う。
- 県内3か所の教育支援センター（ハートフルスペース）に自宅学習支援員を配置し、市町村教育委員会・在籍校・保護者と連携しながら支援を進める。
- 対象者は、小・中学生及び高校生年代の青少年とし、定員は15名（東・中・西部各5名）

（出典）鳥取県教育委員会ホームページを基に北九州市教育委員会にて作成

<http://db.pref.tottori.jp/pressrelease2.nsf/webview/7C2602B65E14D8E84925846D002ADD77?OpenDocument>（令和元年11月5日確認）